

教育民生常任委員会

(令和3年11月8日)

○ 森川 慎委員長

皆さん、こんにちは。

ただいまから教育民生常任委員会を開催させていただきます。

休会中の所管事務調査といたしまして、前回に引き続き、公立幼稚園の第2次適正化計画について取り扱ってまいります。

また、本日は、前回、10月28日の委員会において確認していただきましたとおり、参考人をお呼びして質疑をしていただきたいというふうに思っておりますけれども、参考人の方々からの希望もありまして、お名前は個人情報に関わる部分でありますことから、会議を非公開とさせていただきたいという申入れが改めてありましたので、非公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

合意をいただきましたので、それでは、ここでネット中継を一旦止めてから改めて議論に入っていきますので、よろしくをお願いします。

では、止めてください。いいですか。

それでは、参考人の方にご入室いただきますので、少々お待ちください。

いいですかね。ありがとうございます。

教育民生常任委員会委員長の森川でございます。本日ご多忙の中、お越しをいただきましてありがとうございます。

それでは、まず、本日お越しいただきました皆様をご紹介させていただきたいと思えます。

お一人ずつお名前とどこそこ幼稚園とか、その辺までだけ一言ずつお願いできますか。

では、\_\_\_\_さん、お願いします。

○ \_\_\_\_参考人

\_\_\_\_と申します。\_\_\_\_幼稚園に今息子が通っております。よろしくお願いいたします。

○ 森川 慎委員長

お願いします。

続いて。

○ \_\_\_\_\_参考人

\_\_\_\_\_と申します。\_\_\_\_\_幼稚園に通っていました。今は卒園しております。よろしく  
お願いします。

○ 森川 慎委員長

お願いします。

○ \_\_\_\_\_参考人

\_\_\_\_\_と申します。\_\_\_\_\_幼稚園です。よろしくお願ひいたします。

○ 森川 慎委員長

お願ひいたします。

○ \_\_\_\_\_参考人

\_\_\_\_\_と申します。子供が\_\_\_\_\_幼稚園に通っています。よろしくお願ひします。

○ 森川 慎委員長

よろしくお願ひいたします。

ということで、4名の方にご出席をいただきまして、\_\_\_\_\_さんだけがOBといつたら  
いいのか、元幼稚園保護者の方で、お三方はお子さんが今\_\_\_\_\_幼稚園、\_\_\_\_\_幼稚園に通っ  
ていると、そういう保護者の皆様とご議論させていただきたいと思ひます。

それでは、本日の進め方ですけれども、参考人の皆様に、前回、園長先生にお越しいた  
だいたように、事前にこちらから質問をお渡しさせていただいておりますので、まず、そ  
の質問をして、その後、足らざる部分であるとか、その他の質問を委員の皆様から賜って、  
ご議論をいただければと思ひておりますので、よろしくお願ひします。

そのような形で進めていきますけど、よろしいでしょうかね。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

お願いします。

それでは、事前にこちらで質問事項を作成させていただきました、豊田委員からも前回のときに挙げていただいた質問内容も含めて、質問事項を用意させていただいて、お渡しさせていただいておりますので、改めて私が一つずつ読み上げさせていただいて、ご回答をいただくというような形で、全部で六つですけれども、全ていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

よろしいですかね、大丈夫ですかね、そういう形で。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

それでは、早速質問事項を読ませていただきます。

一つ目です。公立幼稚園を選択されたのはなぜでしょうか。公立幼稚園のどのような部分に利点や魅力を感じられているのでしょうか。また、お子様の入園時、私立の幼稚園、市立の保育園、認定こども園などとも比較されたことと思いますが、どのような点をもって公立幼稚園を選ばれたのかお伺いしたいと思います。

○ \_\_\_\_\_参考人

失礼します。

私はあそび会を通じて公立幼稚園——\_\_\_\_幼稚園なんですけど——を知りました。近くには私立の幼稚園もあって、保育園もあって、あそび会や園の見学会などいろんなところを回って、考えてきました。その中で公立幼稚園がいいと思ったので、よかった点をお伝えさせていただきます。

まず初めに、一番よかったのは園の雰囲気です。アットホーム感、先生たちの言葉のかけ方、子供たちに対する声かけの仕方、あとは生き生きと遊ぶ子供たちの姿をあそび会の

中で見てきたので、そこに魅力を感じてまずは入りたいと思いました。ここに自分の子供を通わせたいと思いました。

通わせていく中で、公立幼稚園の利点や魅力が——箇条書なんですけど——たくさんあったのでお伝えさせてください。

まず一つ、遊びを中心に一人一人を尊重し、丁寧な関わりをしてくれる教育内容です。

どうしても自由な遊びができていたら伸び伸びさせてくれている、遊びの時間が確保されていると思われがちなんですけど、そうではなくて、公立の幼稚園は本当に遊びに関して研究されていて、子供たちが今何を楽しんでいるのか、もっとこういうふうにしたら遊びが盛り上がるんじゃないか、その中で友達同士のトラブルをどういうふうに見守って声をかけていくのか、人との関わり方を教えてくれたりだとか、今日はみんなでこれをしましょばかりではなくて、子供たちが自ら選んで、私はその遊びがしたいからと、体をいっぱい動かして、体中泥んこになって砂遊びをしている子もいれば——今日も午前中に幼稚園に行ってあそび会で遊んできたんですけど——忍者ごっこで武器を持って、風呂敷を巻いて、忍者になり切って遊んでいる子たちがいたり、サッカーで遊んでいる子もいたりして、それを先生たちがしっかり見て、一緒に遊ぶ中で、全員の子たちに目が配られていて、その中で生き生きと意欲的に遊んでいる子供たちの姿を見て、私の子供も2年間でここでの成長をすごく感じたので、それが大きな理由です。

二つ目に、地域の方の見守りと関わりです。

私の園は毎朝地域の方が園の前に立って挨拶をしてくれます。親子共々顔を覚えてくれて、近所のスーパーで会ったら挨拶をしてくれるような、それぐらい近い存在に地域の方が見えました。小学校に上がって大きくなっていくと、子供が1人で行動することとか友達同士で過ごすこととかも増えてくると思うので、そういった中で地域の人たちに知ってもらえているというのは子育ての安心感にもつながります。

次に、同じ地域の友達と一緒に小学校へ行くということです。

幼稚園から小学校に上がることは、すごく気持ち的に親も子もハードルが高いんですけど、やっぱり気の合う友達、気の知れた仲間と一緒に小学校に行けるというのは、子供自身も、また、親も分からないことがある中で保護者同士のつながりができて、一緒に小学校に行けるのでとても心強かったです。

次に、担任の先生のほかにも加配の先生がいて手厚い。目が行き届きやすいし、1人の目からではなく、いろんな角度から子供の様子を見てくれるということです。

ほかの私立幼稚園さんとかだと30人に1人の担任の先生がついていると聞きます。30人とか35人とか、いろいろあると思うんですけど、1人の担任の先生でやっていると思うんですけど、公立幼稚園はみんなの先生という立場で、人数加配であったりとか、配慮を要するお子さんとかもいるんだと思うんですけど、そういうたくさん先生の先生たちが見てくれることによって指導も手厚いですし、1人の先生から自分の子供を見るだけでなく、ほかの先生たちも我が子のことを見てくれるので、また違った目線で子供の成長を教えてくださいました。

次に、徒歩で通えることです。

幼稚園が小学校の隣にあるので、毎日通学路を歩く練習になって、小学校に入ってから通学の不安がありませんでした。

次に、登降園時に毎日先生たちと顔を合わせることです。

やっぱりこれもすごく大きくて、バス通園は家の前から行ってくれるから楽だとは思いますが、そうではなくて、園の様子を実際に自分の目で一緒に見られることと、また、先生と直接顔を合わせることで、幼稚園でどういうふうに過ごしていたのかとか、日々のちょっとしたエピソードとかも直接先生たちから聞くことが多かったのですごくよかったです。

最後になりますが、保護者同士の情報交換ができることです。

こちらでも毎日保護者同士が顔を合わせることで保護者同士の友達もできました。子育ての相談や地域の情報を話せる人が身近にできてとてもよかったです。

利点や魅力は思い当たるだけでたくさんありました。

以上です。よろしく申し上げます。

## ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

お一人で答えるだけですね。ほかの方は別に大丈夫ですね。

それでは、二つ目の質問をさせていただきます。公立幼稚園では3歳児保育、預かり保育ともにこれまで実施されておられません。その必要性については、皆さんどのようにお考えでしょうか。あわせて、他の保護者さんや周りのお知り合い、地域の方というのがあるかもしれませんが、そういったところでどのような声が上がっているか、お聞きになっていることがあれば、お伺いしたいと思います。

## ○ \_\_参考人

これまでの経緯を知り、必要性は今まで幾度となく訴えてきたと思います。私たちが魅力的に感じている公立幼稚園を残すために不可欠だと思っています。

私立幼稚園ではほとんどのところが3歳児保育をしています。保護者は、子供が1歳、2歳のうちから幼稚園、保育園、認定こども園といろいろな選択肢の情報を集め、悩みます。公立幼稚園を選択した場合、必然的に3歳児保育を受けられないという現状があり、不平等を感じます。また、多くの方が子供を私立幼稚園に預けると、公立幼稚園を希望している保護者は、4歳児になるまで待っている子供の周囲に同年齢のお友達が少なくなり、自分の子供と同年齢のお友達との関わりがなくなることに不安や孤独感を感じると思います。

あそび会があるじゃないかと思われるかもしれませんが、あそび会は2時間ほどのものが週一、二回程度です。集団教育を行うには少な過ぎます。また、あそび会は親子での参加です。地域になじみがない方や人と接するのが苦手な保護者にとっては、あそび会に参加することに抵抗がある人もいるかもしれません。実際に幼稚園に入園してみると、あそび会で見かけなかった親子も結構います。

また、共働きの家庭も増え、預かり保育のニーズも高まっています。公立幼稚園に入れたいけど働きたいという保護者のためにも、預かり保育は必要だと思います。

また、公立幼稚園は、経済的、身体的、国籍などの理由で私立を選べない家庭を受け入れるという役割があると思います。実際、私の子が通う公立幼稚園には支援が必要な子がいます。その子の保護者さんが言っていました。自分の子はペースがゆっくりだから、少人数でゆっくりと自分のペースで遊ばせてくれる今の幼稚園でよかった。もしこども園になり、大人数の中では難しいだろう。選択肢が減るのではないかとおっしゃっていました。

教育・保育ニーズが多様化し、利用年齢の低年齢化が進んでいる中、公立幼稚園が取り残されてきたと思います。結果、園児が集まらず、子供の集団生活の確保ができなくなっていると感じます。

以上です。

## ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

続きまして、三つ目の質問です。本市が示しております公立幼稚園の第2次適正化計画について率直なご感想をお聞かせいただきたいと思っております。お願いいたします。

## ○ \_\_\_\_参考人

今回はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。私のほうから3点お話しさせていただきます。

まず1点目に、こども園への移行のタイミングに私たちは不安を感じております。幼稚園がいつ休園、廃園になってしまうか分からない、その後にできるらしい認定こども園でどのような教育を受けることができ、どのような園生活を送ることができるのか、分からないことばかりだからです。

また、こども園になったとして、いきなり同地区内の保育園で幼保連携型認定こども園が開園できるのでしょうか。保育園も受入れ人数が定員に達していると聞きますが、そのような中で、本当に入園でき、幼稚園のような教育も受けることが可能なのでしょうか。

私たち保護者で、子供が通う場所がどこでもいいと考えている人はいないと思っております。公立幼稚園がよくて、入園の時期まで待っているのです。

2点目は、私たち保護者は、保育園ではなく、幼稚園を希望して入園したいと考えています。現段階での計画を見させていただき限り、保育主体のこども園のように感じてしまいます。

四日市市の公立幼稚園はとても魅力のある指導をされていますし、子供に寄り添った指導をしてくれています。私の子供たちも幼稚園ですごく成長させていただきました。なので、この計画にあるように保育園がこども園へ移行する形ではなく、計画にも上がっている幼稚園園舎を利用した認定こども園を新しく立ち上げ、そこで幼稚園が主体となって教育、運営される幼稚園型のこども園であってほしいと私は願っております。

3点目は、3歳児の受入れについてです。この計画の中に、3歳児の受入れについてはまだ今のところ検討となっており、こども園のメリットが活かされていないように思います。異年齢の中で生活することがメリットとして挙げられていますが、教育認定児の3歳児受入れがいまだ検討となっていることが少し残念に感じます。

最後に、このようなこども園化に進む前に、今ある公立幼稚園で人数が増えるよう、3歳児からの受入れや預かり保育、全日程での給食、また、地域のスポーツ教室などとの連携など工夫や魅力を増やして、今ある公立幼稚園を存続していけるようにしていただきたい



と思っております。

以上となります。よろしくお願いいたします。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございました。

続いて、四つ目の質問をさせていただきます。

○ \_\_\_\_\_参考人

ここで付け加えていいのか分からないんですけど。

○ 森川 慎委員長

どうぞどうぞ。

○ \_\_\_\_\_参考人

私は\_\_\_\_\_幼稚園に通わせていて、下にも1歳の子がいるので、また次、幼稚園選びというか、今もう既に考えている真っただ中なんですけれども、\_\_\_\_\_幼稚園が今回人数が足りなくて、もう廃園が決まりましたという説明会が市のほうから8月にありました。その人数次第によってはまた10月に決定事項を伝えますということで、2回説明会に見えたんですけど、そのときに初めて第2次適正化計画のことを知りました。もう衝撃で、何も知らないまま、もう\_\_\_\_\_幼稚園がなくなってしまうんだという印象というか、ショッキングな内容でした。

第2次適正化計画の話がされる中で、こうなる原因として、保護者のニーズの多様化、低年齢化、幼児教育・保育の無償化で公立幼稚園が急激に減少したというふうに説明をされたんですけど、前々から言っているように、それが分かっている、ずっと3歳児保育なり預かり保育なりを訴えてきたのに、何も公立幼稚園の人数を保证するための、子供たちがよりよい幼稚園生活を送るための手だてを何もしてくれなかった市の対策不足で公立幼稚園が減少したというふうに、もうはっきりと認めてほしいと強く思いました。もう冒頭からその説明が入ったので、地域の住民としては、公立幼稚園はこんなにいい幼稚園なのに、市が何も悪いと思っていなくて、もう人数が少ないから、仕方ないから第2次適正化計画に入ります、人数が少ないからもう\_\_\_\_\_幼稚園はなくなりますという説明だったので、

それでは到底住民としては、市民としては納得できませんでした。

その説明会自体も、8月の説明会は2週間前ぐらいに私のところに園長先生からのお電話で、あそび会に行っているから、下の子がいるからと思って、園長先生が私に電話をくれて知りました。回覧板とかにも何も回ってなくて、地域の人たちは何も知らない人ばかりです。本当に一部のたまたま知っていた人に口コミで知らされただけで説明会をやりましたと言われたら、もう住民を本当にばかにしているとしか思えなくて、説明会の中でも地域の人たちからたくさん声が上がっていたんですけど、なかなかそれも聞いていただけなかったので、そして、2回目の説明会は何と3日前のお知らせでした。来ているのも8人いたかなというぐらいしか知らされなかったです。人数だけ言って廃園に決定しましたという報告のみの説明会で、1回目の説明会に出た意見に対する返答は何もなかったです。

第2次適正化計画の説明会に当たってのことをどうしても言いたかったので、付け加えさせてください。

#### ○ 森川 慎委員長

以上ですかね。

ありがとうございます。

それでは、四つ目の質問をさせていただきます。

今後、本市が進めていく予定として、認定こども園を整備する予定がありますけれども、認定こども園の整備についてどのようなことを望まれているかということをお伺いしたいと思います。

#### ○ \_\_\_\_参考人

先ほどの繰り返しにもなってしまいますが、保育主体ではなく、現在の幼稚園に早朝・延長預かり保育を追加したような、3歳児の受入れもした幼稚園型、幼稚園主体のこども園を望んでいます。そのこども園で1号認定児の3歳児保育をぜひ実施してもらいたいです。

これまでずっと公立幼稚園の3歳児保育を懇願してきたんですけれども、かなわなかったことを少し残念に思っております。下野幼稚園で7年間実施された実績もあるので、ぜひ今後の幼稚園に3歳児保育を盛り込んでほしいと思います。県内で四日市市だけ1号認定の3歳児保育を実施していないのは不自然なように感じられます。私立で3歳児保育は

担っていますが、現状空きがあるのかもしれないんですけども、保護者はやはりどこでもいいわけではないので、行き慣れている地域密着型の公立幼稚園に行きたいと思っているので、公立幼稚園で3歳児保育をぜひ実施していただきたいです。

また、認定こども園で、公立幼稚園でかなわなかった私立と同じ選択の3歳児保育というスタートラインに立つようにしていただければ、こども園の1号認定の3歳児保育の実施は、こども園に預けてパートで働きたいという保護者の受皿にもなるかと思っておりますので、そして、1か所でも多くの幼稚園型のこども園の実施を希望しております。3歳児保育の実施、園舎の活用、延長預かり保育の実施です。

できることなら、休園となる同地区内の保育園と連携して、ゼロから2歳児は保育園の建物を利用し、3から5歳児は幼稚園の建物を利用してほしいです。保育園の遊具があっても、小さい幼児さんと一緒に園庭を使う中だと制約もあることが考えられますし、いたわる気持ちは育つでしょうが、思いっきり体を動かして遊ぶことを考えると、そのほうが運動能力や体力の向上も期待できると思います。そして、幼稚園の園舎を利用することで保育園の建物内でも空きができて、ゼロから2歳児の受入れの枠も広がるのではないかと考えます。

最後に、こども園開園のスケジュールを一度見直していただきたいです。今のままだと、公立幼稚園に入れなかった後、私立の幼稚園に入るとしても、選択の時間が少な過ぎるし、そして、必ず希望の私立の園に入れる保証もないです。希望の私立の園に入れなくてこども園に入るとしても、今のようにカリキュラムやどのような園生活が送れるか分からないままですと、不明なことも多く、不安を感じてしまいます。なので、少し見直してほしいなと思っております。

以上です。

## ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

## ○ \_\_\_\_\_参考人

私は先ほどもちょっとお話ししたように、\_\_\_\_\_幼稚園がもう本当に何も知らないまま全部決まったことを下ろされるだけで、もう今まさに不安な状態があるというところにいるので、今の生の声を本当にお伝えしたいと思っていて、人数が足りませんでした、廃園で

すと言われたときには、まだこども園がどういうものなののかもやっぱり決まってない状態です。

なので、私が思うのは、各地域、\_\_\_\_なら\_\_\_\_、\_\_\_\_さんなら\_\_\_\_、地域ごとに保育園や幼稚園がどんな園舎なのか、人数がどうなのか、子供たちの特性、どういう地域柄なのかとか、それぞれ違うと思うので、今はもう一律に保育園舎にこども園をつくりますというふうに言われているので、そうすると、もうどうしても幼稚園がなくなって、保育園のほうに行って生活するんやなというふうにしかならないので、そうではなくて、第2次適正化計画がスタートするというのがもう決まってしまったのなら、よりよいこども園にするために、地域ごとでどっちの園舎を使えばいいのか、ベストがなければどちらかを改修するまで、例えば\_\_\_\_幼稚園やったら給食室とかが幼稚園にはないので、一時的に保育園のほうで過ごすけど、保育園はすごく狭い、幼稚園の半分以下ぐらいの広さ、園庭も部屋も両方すごい狭いところで、今もたくさんの子供がいる保育園でやるとしか言われていないので、そうではなくて、数年かけて幼稚園舎のほうを改修して、こちらにこういうこども園をつくりたいですとか、そういう今の幼稚園をよりよいこども園にしていくための話合いをもう今すぐ各地域のところで、保育園、幼稚園の現場の人たち、保護者なり、先生たちなり、地域の方々なりを巻き込んで、もう今すぐにでも話合いを始めるべきだと思います。

公立幼稚園はどこの園も人数が少なくなっているのでもう1桁になったら次の年でなくなるかもしれないという、びくびくした首の皮一枚みたいな心理状態に今の幼稚園のお母さんたちはいるので、そうなるからではなく、今から地域ごとに施設面と、あとは教育内容です。今から何も無い保育園に入れられる、幼稚園と保育園は同じことをしていますと市から言われるんですけど、そんなわけないんです、実感として。保育園と幼稚園それぞれが一生懸命やって培ってきた教育なり保育は違って、私たちは選んで幼稚園に入って、幼稚園の教育を受けたいと思ってきたので、そのよさが必ず生きるような教育内容をはっきり示してもらいたいなと思っています。

あと、3歳児保育を検討するというふうに書かれているし、説明会するときにも言っていたんですけど、いつから検討していて、いつまでに検討は終わるんですかと質問させていただいたんですけど、今議会で話し合っているところなので検討中としか言えませんという回答だったんです。話し合うのはこの場じゃないんですかと思って、本当に検討されているんでしょうかというのが疑問で、そこをはっきりさせてもらわないと、私も今1歳の

子供がいるので、もう令和5年からのこども園のスタートだけが決まっ  
ているのか、そこに私の子供は3歳児で入れるのかどうかも分から  
ないし、自分は仕事を探すべきなのか、どうしたらいいのかも今  
分からない状態なので、もう3歳児保育のスタート、検討期間、切  
実に教えてもらいたいなと思っています。

以上です。

## ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

次、五つ目、公立幼稚園保護者、あるいは関係者の皆さんとして、  
現在最も不安に思われていることはどのようなことでしょうか、周  
りの保護者さんや地域の方からも聞かれるような声も併せて教  
えていただきたいと思います。先ほどと重複することはあるかと思  
いますけれども、教えていただければと思います。お願いします。

## ○ \_\_\_\_参考人

\_\_\_\_です。よろしくお願いします。

私たちが最も不安に思っていることは、地域の公立幼稚園がい  
ずれなくなり、子供を安心して預けられる場所が減ってしまうの  
ではないかということです。今の第2次適正化計画では保護者は不安  
でしかありません。

15人を下回ってから考えるのではなく、こども園が自分の地域に  
いつできるのかをはっきりさせてほしいです。そして、こども園  
がどのような形なのか、3歳児を受け入れてくれるのか、園舎を  
活用してくれるのか、預かりや延長はあるのかを十分に検討し  
て、納得のいく説明をしてほしいです。

今お世話になっている幼稚園には、4歳児が\_\_人います。ですが、  
次年度の入園予定児は\_\_人になっています。周りは驚きとともに  
不安になります。1人目が公立幼稚園で、続けて次の子も公立  
幼稚園を選びたいという声は周りにも多いです。でも、幼稚園  
があるかも分からない、どんなこども園ができるのかも分から  
ないでは、下の子のときまで待てるのでしょうか。

今の市の計画では、公立幼稚園を活性化させることを何もせず  
に、園児の数を減らすだけ減らして保育園とくっつけようとし  
ていてしか見えません。

また、今の市の計画の中心である幼保連携型こども園では、幼  
稚園舎の活用をしてもら

える地域はほとんどありません。では、廃園になった後、幼稚園はどうなるのでしょうか。公立幼稚園の場所は、ただの場所ではないと思います。地域の人々にとっても大事な場所ですから、地域の人の声を聞いて検討し、説明してほしいと思います。

最後に、認定こども園で子供を安心して預けられるかについての不安の声もよく聞きます。2号、3号認定の子供たちと1号認定の子供たちは生活リズムが違う。でも、大丈夫かな。多くの2号、3号認定の子供たちの中に少ない1号認定の子供たちが入って肩身の狭い思いをするんじゃないだろうか。そもそも地域の保育園がいっぱいだったら、こども園になったとき、1号認定の子は入れるんだらうか。公立幼稚園の教育を信頼しているけど、こども園になったとき、それがきちんと生かされたものになるのだろうか。不安は尽きないと思います。何よりも保護者の納得、安心、そして希望、そういうものが持てるような計画を立てて、説明していただくことが重要だと思います。

以上です。ありがとうございます。

#### ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

それでは、六つ目、最後の質問をさせていただきます。公立幼稚園のみならず、四日市市における就学前の教育、保育に関して、あるいは子育て環境全般に関してどのような実感、感想を皆さん持っているのでしょうか。あわせて、不安、不満、改善してほしいことなどもあれば教えていただきたいと、お答えいただきたいと思います。

#### ○ \_\_\_\_\_参考人

何度もすみません、失礼します。

子育てするなら四日市と市長が言っていたのを聞いたことがあります。就学前教育・保育はもっとしっかり公立で担うべきだと思います。強く強く思います。

私立はいろんな特色があって、習い事とかとつながっていたり、施設がきれいであったり、一見すると保護者から魅力のあるようなところがたくさんあります。バスで通えたらそれは親も楽です。

でも、そういうことじゃなくて、就学前の時期って子供の人間の基礎、人としての考え方とか人の気持ちを思いやるとか、そういう人として一番大事なところを教えてくれるのが公立幼稚園で、見た目はもう地味というか、世のお母さんから見たら、何で公立に入れ

ているのかなと思う人もいるかもしれないんですけど、本当に子供のために思って、この時期に一体何が子供にとって大事かというのを一番やっているのが公立幼稚園だと私は思っています。なので、もうそれを潰してしまったら、四日市の子供たち、本当に将来大丈夫かなと思うぐらい、私立に空きがあるから私立に行けばいいと思っているような考えだったら、もう直ちに変えてほしいなと思います。

公立で就学前、3、4、5歳の教育、保育をしっかりと担ってほしいです。そのために、こども園化が進んでいくなら、よりよいこども園にしていく、つくっていく、市の一方的なやり方ではなくて、地域の声を聞いて進めていくというところを強く願います。

あと、話は替わるかもしれないんですけど、時代のせいと言ってしまえばそれまでなのかもしれないんですけど、実際に初めて私も子供を産んで子育てしてというので実感したのは、やっぱり頼れる人が少ない、子供を産んでから小さい時期って親は孤独になりがちだなと感じました。なので、子供はすごくかわいいです、目に入れても痛くないほどかわいくて、自分が命をかけて守りたいと思っているけど、毎日1対1で子供と関わっていると、やっぱり息が詰まったり、大変なことも多いです。だから、早く幼稚園とか保育園に入れたほうがこの子のためと思っている親はたくさんいます。家にいるより早く幼稚園へ入れてあげたほうがこの子のためというので低年齢化も進んでいると思います。周りの私立はもう2歳児から受け入れています。

なので、それぐらいお母さんたちは結構見えないところで苦しんでいるので、そこを手助けする支援、ゼロ、1、2歳児のお母さんたちが家で子供たちと関わりやすくなるための支援がもっとあるといいなと思いました。自分から足を運んで支援センターに通ったりすると、やっぱり周りのお母さんや先生たちと話ができたりリフレッシュできたりします。でも、自分で探して、自分でそこに足を運ばないとそういう場には行けないので、そういうことをしない孤独なお母さんたち、もっとたくさんいると思います。なので、もっと身近なところでそういう手助けができるとうれしいなと思いました。

あと、私たちの親世代はもう貯金しておけばお金がたまっていくようないい時代を過ごしてきたけど、今自分たちは正直1馬力では厳しいような、なかなか貯金が増えていかないという状況なので、少しでも働いて、自分が生活のために少しでも働かなきゃ、でも、子育てはしたいけどというところの葛藤もあるので、そういう支援もあるとうれしいなと思います。

最後にもう一つ、今日、一緒の\_\_\_\_幼稚園からもう一人の方が来る予定だったんですけど

ど、ちょっとぎりぎりになって、子供がいるところには入れないということを知ったので、子連れで行きますというふうをお願いしてあったんですけど、預け先がなかったために来れなかったこともあって、融通を利かせてもらえるとありがたかったなというか、なかなか身動きが取れない、今日も皆さんは子供たちを誰かにお願いしてきたので、そういうところも思いました。

あと、11月1日だったかに議会報告会というのが地域であったと思うんですけど、教育民生常任委員会の報告もあったと思うんですけど、夜だったので、こども園の話とか何かあるのかなと思って興味はあったんですけど、なかなか出にくい時間だったので、誰も行けなかったねというのがあったので、そういうところも母親目線でお伝えさせていただきました。ありがとうございました。

#### ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。以上でよろしかったですかね。

お子さんに来ていただくということは事前には聞いていたんですけども、議会のルールとしてちょっとこれ、難しいというようなことを事務局と話し合いましたので、また今後、これはまた議会で——議会運営委員会の正副委員長がいますので——また議論いただけたと思いますので、またこれは全体の話としていきたいと思います。ありがとうございました。

事前をお願いをさせていただいた質問は以上となります。

ここからは、委員の皆様からご質疑を個別にいただきたいと思いますが、今日って何時ぐらいまでは大丈夫と言ってもらっていますか。

#### ○ 渡邊議会事務局主事

一応午後3時ぐらいをめぐりに。

#### ○ 森川 慎委員長

午後3時ぐらいをめぐりということで、一回休憩を取りましようか、それか。どうですか。続けますか。

#### ○ 日置記平委員



ちょっと待って。今何を言おうとしたの。

○ 森川 慎委員長

大体午後3時ぐらいまでの予定なので、ここまで一旦お話をいただいたので、改めてちょっと、一回10分ぐらい休憩を取ってから質疑に入っていこうかなと思ったんですが。

○ 小川政人委員

もう50分しかあらへんで。午後3時までやろ。

○ 森川 慎委員長

続けていいですかね。

○ \_\_\_\_\_参考人

私たちは続行で大丈夫です。

○ 森川 慎委員長

大丈夫ですか。

そうしたら、委員の皆さんから質疑をお受けしたいと思いますので、挙手にてご発言をお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

○ 豊田政典委員

今日は皆さんご出席いただきましてありがとうございます。

公立幼稚園の魅力から始まって、実に切実というか、いろいろと考えさせられる、改めて考えなければいけないご意見をたくさんいただきました。

一つ、教えてほしいんですけど、1問目のところで、公立幼稚園を選ぶ中で、あそび会を通じて公立幼稚園の現状も分かったし、いろいろ魅力も語っていただきましたが、私立に入れようと思うと、3歳児保育がありますから、3歳の時点もしくは2歳の時点で就園を希望しますよね。これは、僕はあそび会を分かっていないところもあるんですけど、公立幼稚園のあそび会は3歳児を対象にやっているのかなという認識なんです。もっと早

いんですか。

○ 森川 慎委員長

具体的なところも併せてご説明いただいて。

○ \_\_\_\_\_参考人

園によってはゼロ歳から未就園児が通えるあそび会があって、うちの園もあったんですけど、全体が来れる日と別に3歳児だけが来れる日というのもありました、それは園によるんですけど。基本は未就園児です。ゼロ歳から3歳児までです。

○ 豊田政典委員

そうすると、公立は3歳児保育をやっていませんから、その前に私立をどうするかという決断があったと思うんですよ。その辺をもう少し教えてほしいなと思って。私立じゃなくて公立に決定されたのはいつ頃で、子供さんが何歳のときの時期なのかというのをひとつ教えてください。

○ \_\_\_\_\_参考人

私自身は2歳児のときでした、人それぞれだとは思いますが。1歳児ぐらいから考え始めて、さんざん悩んで、私立に行くならもう2歳児のときには願書を出さなきゃいけないと思うんですけど、そこで出さずに、公立で行こうと決めて、丸々3歳児の1年間は友達も少ない中、家で子育てしました。

○ 森川 慎委員長

他にいかがでしょうか。

○ 日置記平委員

意欲ある今日のお出ましに感謝をいたします。

私は内部なんですけど、以前に内部のほうから皆さんと同じ要望を私はお聞きさせていただいています。だから、そのときも、今から申し上げることも同じなんですけど、いよいよ日本の社会は少子化自体がどんどん進んできていますので、市のほうもこういう政策を打

ち出したんだと思います。ただ、教育は公平にしてもらわなければいけない、人数が減ったから統合してやればいいのかというのではないというのが私の考え。人数が減ろうが、正しい保育・幼児教育を行政はすべきだというのは基本だと思います。

今日、あなた方が大きな声で訴えていただいたことは、四日市市は真摯に受け止めて、しっかりと方向性を示しながら、政策の変更というのはあってはならないか、あるべきなのかですが、時には政策を決定していても変更はすべきだと思っています。

大事な衆議院の選挙も終わりましたが、どの党首を見ても共通な意見は何だったですか。国民に視線を向けて国民が安心して生活できる環境をつくるために私たちは頑張るというのは、どの党の政策も同じだったんです。それなら地方もその政策に沿ってやっていくのが正しい選択であると思っています。

だから、保育園が、幼稚園がこれまで20人、30人いたところが激減して、たとえ5人になろうとも、それは、市民の、あるいは保護者の、お母さん方の、お父さん方の希望をかなえるような形で政策を推進していかなければならないという方向性を変えてはいけないというふうに思っています。

ただ、この間も四郷でその話が出ました。多分私立の保育園か幼稚園で仕事をされる方が見えていたんだと思います。

いずれにしても、一番大事なのは、もう同じことを申し上げますが、市民の皆さん方のご要望をしっかりと受けていくのが本当の政策です。なぜなら、四日市市は市民の皆さんから頂いた税でいろんな仕事をさせてもらっているからです。その恩恵を受ける方々がノ一と言われたら、それは真剣に膝を突き合わせて話し合わなければいけない。ただ、私たちはこう決めたからといって、肅々とその方向に進めていくのはよくないでしょう。しっかり受益者の皆さんと話し合っ、必ず接点は見つかるはず。正しい教育をしてもらうために頑張っていきます。皆さん方も頑張ってもらいたいと思います。

以上です。

#### ○ 森川 慎委員長

ご意見ということですが。

他にいかがでしょうか。

#### ○ 中川雅晶委員

今日は本当にお忙しい中ありがとうございます。

先ほどお伺いさせていただいて、\_\_\_\_幼稚園でしたか、説明会が、なかなか告知が難しいというところはあるかもしれないですが、まだちょっと行政にも確認していないんですが、2回目の説明会も3日前の告知であったりとか、非常に少ない参加者であったりとかというところは、本当にこれが事実であれば申し訳ないなというふうに思いますし、説明の仕方、もう少ししっかりと私たちのほうからも行政側に対してやっぱり言っていかなきゃいけない部分を指摘していただいたなというふうに思いますので、こういうことがあってはならないと、どんな結論にしても、しっかりと情報共有をして説明をしていくということは、市行政としては、また、私たち議会もやっぱりそれは襟を正してやっていかなきゃいけないのかなというふうに、率直に言って本当に申し訳ないなというふうに思います。

先ほどから、どういうこども園をつくっていくのかというのをやっぱり明確にしてほしいと、あわせて、3歳児保育、それから延長預かり保育をどうするのかというのを明確にさせていただきたいというご意見をいただいて、私たちも、総合計画の中においては、教育認定、1号認定はしっかりとこども園の中で公的役割を果たしていきますと、その中において1号認定の3歳児の受入れの検討を進めていきますというふうに、ぼかした形で書いてあるんですが、ここは、私も、3歳から5歳までの教育・保育の無償化が始まる中において、ここを置き去りにしたまま認定こども園化するというのはやっぱり課題があるかなというの率は率直に思っております。どういうふうに整理をしていくのか、もちろんハード的になかなか受け入れられないというところはあるかもしれないですが、であるならば、解決策を一緒に考えていかなきゃ、検討していかなければならない。やっぱり就学前教育・保育を全ての子供たちに保障していくということが今回の国の政策でもあるし、本市の中においても、就学前教育・保育をしっかりと一人一人に保障していくという視点は非常に重要であるというふうに私も考えております。

先ほど子育て支援センターの話も出ていて、これもこの間の議会報告会の中で子育て支援センターの件について言及された市民の方——多分保育園関係者か幼稚園関係者の方やと思うんですけど——がおっしゃっていたんですが、私は、認定こども園化すると子育て支援センターは必置になってくるので、子育て支援センターの在り方というのを、本市は考えていかなければならない。先ほども、子育て支援センターに来られるお子さんと親御さんはまだいいですけども、なかなか来られない、そこにアクセスできない人のほうが課題ではないですかというご指摘はもうまさしくそうかなと思います。

この辺も、今までのような受け身だけの子育て支援センターではなくて、アウトリーチ  
というか、こちらから積極的に子育て支援センターが出向くとかというような、子育て支  
援センターの在り方というのを検討するいい時期ではないかなというのは、併せて認定こ  
ども園化——今現在も子育て支援センターは動いておりますので——も含めて議論する必  
要があるのかなというふうに思います。

先ほどちらっと子育て支援センターのことについて言及をいただきましたけれども、そ  
の他、実際に感じておられることがあれば、もう少し具体的な例とかがあれば、もし子育  
て支援センターはどのように充実していけばいいかというようなご教示があれば、ぜひお  
聞かせいただきたいなというふうに思います。

#### ○ 森川 慎委員長

こども園に通っている方たちではないので、なかなか分からんような気はするんですが、  
何か、あそび会とかも含めて、そういう……。

#### ○ 中川雅晶委員

あそび会もその一つですよ。

#### ○ 森川 慎委員長

中川委員は子育て支援センターを中心にお話をいただきましたが、先ほど、そういうと  
ころにたどり着けない保護者さんへのアクセスであるとか、そういう方たち、ちゃんと行  
政が見てほしいというようなお話があったので、その辺に付随するようなことで何か具体  
的なこととかあればお聞かせいただければと思いますが、どうですかね。周りで聞く声で  
あるのかなどありましたら、どうですか。

#### ○ \_\_\_\_\_参考人

幼稚園のあそび会は週に1回の2時間程度で、保育園もあそぼう会をやっているんです  
けど、そこも週1回です。なので、それ以外の曜日で——私は\_\_\_\_\_地区なんですけど——  
橋北地区にある子育て支援センター単体でやっているぽっぽというところによく通わせて  
もらっているんですけど、そこまで足を運んで楽しい時間を過ごさせてもらっています。

なので、なかなかそこまでは車がないと行けないですし、あと、幼稚園にはあそび会用

の部屋があって、ままごとがあって、絵本コーナーがあって、粘土も出してもらったり、環境が整っていて、先生もいてという、外でも遊べて、中へ行ったり来たりできる感じなんですけど、保育園のあそぼう会は——\_\_\_\_だけかもしれないんですけど——ホールの一隅でやっていますとあって、おもちゃとかもほとんどなくて、何となくホールを走っていたり、少ないおもちゃで遊んでいたりとかする感じだったので、そういう面でも、もしこども園になるんだったら、こども園の中に、もちろん未就学児さんたちを今最優先でやってほしいんですけど、付け加えて言わせてもらえるなら、こども園の中にきちんと未就園児の子育て支援センターとしての役割のお部屋と、先生、おもちゃとかで安全に遊べる環境、ゼロ、1、2歳児の親が先生に相談とかしやすい場所をつくっていただけるといいと思います。各地区にあれば、それが、いつでも通えるようになればいいなと思います。

#### ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

そういうようなお答えですけれども。

#### ○ 中川雅晶委員

子育て支援センターに来られる多くのお母さん方——お父さんもおられるんでしょうけど——の目的は、先ほども誰かもおっしゃっていましたが、子育てするというのは非常に大変というか、特に核家族になって支援がなかなか受けられないという中においての子育て、子供と24時間向き合うというところの大変さ、この子育ては正解なのかどうなのか、一緒に涙を流しながらいろんな悩みを聞いてもらったりとか、そういう場所が子育て支援センターで、これでオッケーやとあって少し背中を押して、大丈夫やということをしていただくことで、また家に帰って子育てをすると、またチャレンジをすとかという、子供もそうなんですけど、親の関わり方とか、多くの人目を見ていただくというところに、非常にメリットがあるのかなというふうに思いますし、親御さんが安定することによって子供も安定すとかというところで、ぜひそういうことが作用するような本市の子育て支援センターにやっぱりしていただきたいなと。

どっちかという、今の子育て支援センターは付録のような形で、あまり求めていないとか、いろんな園によってはチャレンジをされていても、市のほうはそれを正当に評価していないとかって、いろんな課題はあるのかなと思いますので、やっぱりこの機会に、

園だけではなくて、子育て支援センターも非常に拡充というかスキルアップをしていかなきゃいけないんじゃないかなというのも、この間の議会報告会の中で、私も再確認をさせていただいたというところがあります。

それとあと、私ももう大分年を取りましたけど、5人の子供をずっと、幼稚園も保育園も長く、幼稚園の子もいましたし、保育園の子もいましたし、今のように3歳から5歳の無償化ありませんでしたので、全部自己負担しなきゃいけなかった時代ですが、経済的にも大変でしたし、ただ、保育園だからどうやとか、幼稚園だからどうやとかということは、もう今は5人の中で誰が保育園やったか、誰が幼稚園だったかもよく分からないという形なので、それだけそれぞれによさがあると思いますし、僕は、認定こども園で目指さなきゃいけないのは、幼稚園とか保育園とかっていう従来の縦割り行政の中の子育てではなくて、新たに21世紀型の就学前保育をやっぱり目指していかなきゃいけないんじゃないかなって、どういうふうに認定こども園をつくるかというところに一つの間目標があるのではないかなというふうに考えております。

だから、四日市市がぜひよりよい認定こども園を、三重県内で、また全国で誇れるような認定こども園をつくり上げていくということが私たちに課せられたテーマではないかなというふうに感想だけ言わせていただきます。

以上です。ありがとうございます。

## ○ \_\_参考人

\_\_です。

先ほどこども園のハード面の話を、ちらっとされていましたが、それでいうと、例えば、廃園になった幼稚園の園舎を利用すれば、ハード面も解消される部分はあるんじゃないかなと思うんですが、幼稚園の園舎を利用するということは、今まで、経緯をちょっとまだ十分に把握してはないんですが、そういうことは検討されているんでしょうか。

## ○ 森川 慎委員長

廃園がもう決まったのは、今回4園ですけど、その園舎はどう使われるかということが検討されているかどうか。どうしようという話は、まだ一切何も――前回の委員会でも確認をさせていただきましたね――全然そこまではいっていません、正直なところ。行政から示されているのはそういうような状況です。

## ○ \_\_参考人

先ほど子育て支援の話も出ていましたが、私はいろんな保育園の子育て支援センター、行かせてもらったことがあるんですが、大体どこも1室で行われていて、園庭は園児、ゼロ歳から5歳児の園児がぼっといっぱい遊んでいる中の端のほう、子育て支援センターを利用するのは、ゼロ歳から2歳ぐらいの小さい子なので、子供たちがぼっといっぱい走り回っているところは危険なので、もう隅のほうで結構細々と遊んでいるイメージだったんです。

それこそ幼稚園の園舎を利用して、例えば、3歳から5歳児の子たちは幼稚園園舎を利用、ゼロから2歳児は保育園の建物を利用というふうにすれば、子育て支援センターを使う子たちのスペースも取れて、安心して遊ばせられるんじゃないかな、多くの人を利用するんじゃないかなと思いました。

以上です。

## ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

園舎跡地を利用してそういうふうを活用したらどうかというご提案をいただきました。ありがとうございます。

他にいかがでしょう、ご質問等。

## ○ 小田あけみ副委員長

今日はどうもありがとうございます。自分が子育てをしていたときに感じていたのと全く一緒だなと思いました。

うちの子も3人、公立幼稚園に通わせました。1人目は、それこそ皆さんおっしゃっていたように、4歳まで待てず、3歳で私立に入れたんですが、全くなじめず、一斉に園庭に行きましょう、一斉にお絵かきしましょうというのになじめず、公立が近くにあったので4歳から転園しました。もうそれまでは幼稚園に行きたがらなかった子が、めちゃめちゃ幼稚園に行ってくるみたいになって、本当にいい場所にいさせていただいたと思っております。

やっぱり3歳児から預かってほしいという希望は私たちのときからありました。実際に



3歳児の希望をたくさん寄せられて、六千幾つかの署名がありましたけれども、あのときもやっぱり同じように質問はさせていただきました。皆さんが感じているのと同じように、市は何にもしてくれずに、人数が減っていくのを待って、園をなくそうとしているように私も見えましたし、そのように質問しましたけれども、そういう意図ではないんだよというご返事はありませんけれども、本当に見捨てられたような気がしていました。

実際問題として、子育てをされていて本当に大変な場合に、幼稚園、保育園だけではやっぱりもう無理だと思っているんです。私は孫がいるんですけれども、嫁がほとんど産後鬱みたいになって、孫の世話を2か月ほどしましたけれども、園という枠組みではもう支え切れないぐらいお母さんたちというのは孤立しているし、本当にほかの方法が要ると思っています。私は一般質問でもさせていただいたんですが、もっと地域に頼れる、預けられるような場所が欲しいと私は思っています。

こども園に関してなんですが、皆さんが一番不安に思っておられる、それと全く同じことを私も思っています。どんな形になるのかが分からない、いつできるかが分からない。お母さんにとって一番不安なのは、自分の子供がどこに入れてもらえるかが分からないことだ、それも大分前の委員会で言わせてもらったことがあります。どうしていくか、はっきりしてほしい。母親としては、何が起こるか分からないけれども、そうなったときは何とかしますからと言われるのが一番困るんですよと言いました。

だから、子育てをしていくときに、子供が減ってきたから園がなくなっていくというのは本当に切ないです。もう減ってきたとかは私らのせいと違うしと思いました。

ただ、じゃ、減って行って、園が少なくなるんなら、ちゃんとした形を、もうこんなふうになりますよと言ってほしい、それはずっとこの委員会でも皆さんと同じように言っています。こども園にしていくことを否定しているのではなくて、皆さん、どんなこども園にしてほしいか、していきたいのか、市がその像をちゃんと示してほしいというふうに言っています。胸を張って、こんなこども園にしますから皆さん来てくださいと言ってほしいというふうに要望はしています。

市も決して皆さんを見捨てているわけではなくて、本当に一人一人の、こども未来部の皆さんとお話をすると、何とかしたいという思いを持った方ばかりですので、そんなにひどいことをするとは思っていないんですが、やっぱり不安というのはとてもよく理解できますので、同じ母親として、孫のいるおばあさんとして、子供たちをちゃんと安心して育てられるまちになっていくために私も力を尽くしたいと思っていますので、本当に皆さん

の質問という話だったのに、ちょっと質問になりませんでしたけれども、私の意見として、こういう人間も委員会におりますので、皆さんもまた委員会を見ていただいて、これからもご意見があったら上げていただきたいと思います。ありがとうございました。

○ 森川 慎委員長

ご意見いただきました。

○ 笹岡秀太郎委員

海蔵地区の笹岡です。六十数年前に海蔵幼稚園を卒業しておりまして、海蔵幼稚園が大好きです。ずっと子供たちの姿も見てきました。

最後の質問に頼る人が少ないというお言葉があったのかなと思っていますが、それぞれの地域でみんなが一生懸命子供のことを思って、様々な活動を通して子供のことをしっかりと見守っていただいているし、何とかしたいという思いもある人たちがばかりなのかなというようなことを思っているんですが、特に\_\_\_\_\_地区でいうと、様々な行事の多い地域で、ほかの地区から見ると本当に地区行事が多くて、多くの方がそういう事業に参加しているという状況を見えていますね。

ただ、よそが少ないから駄目だとか、そんなことは言っていないで、それぞれの地域は特色を出して様々な活動をやられておるんですけど、\_\_\_\_\_地区はそういうふうには人の交流も多い中で、それでもやはり頼れる人が少ない、相談されるところが少ないというご意見があったので、じゃ、具体的にどういうことを相談されて、どういう人に何かアドバイスをいただきたいとか、そういうことがあれば教えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○ 森川 慎委員長

いかがでしょう。\_\_\_\_\_地区じゃなくても大丈夫です。

○ \_\_\_\_\_参考人

言ったのは私なんですけど、子供を産んで初めて世間と関わらない時間が増えました。産後1か月はやっぱり寝たきり状態ですし、それから、少しずつ生活を取り戻しながら、赤ちゃんのお世話をしながら、体もしんどくて、授乳も難しくて、思うように赤ちゃんが

ミルクを飲んでくれなくてというのが毎日寝不足で続いて続いてとなっていくときに孤独を感じました。

それまでは、結婚して生活が変わっても、結婚してからもそれなりに遊びに行ったり、友達と会ったりとかして世の中と関わっていて、それまでは仕事もしていましたし、世の中と関わって生きてきたと思っていたんですけど、子供を産んだ途端にそれが全て遮断されて、自分1人と赤ちゃん1人の1対1の家での時間で、がらっと生活リズムが変わったので、本当にそのときに孤独を感じて、こういうことか、育児ノイローゼとか鬱になるというのはこういうことなんだなと、なりはしなかったですけど、何となくそれを体感したので、赤ちゃん訪問は4か月ぐらいのときに1回は市からあると思うんですけど、本当に1回だけの数分だけなので、なかなかそこで全部の悩みとか日々の大変さを言うわけにもいかないですし、ちょっと足りないというか、人それぞれだとは思いますが、私の場合はちょっとそういう感覚になりましたね。

本当に毎日大変なんです。やっと子供が1歳ぐらいになって外に出られるようになって、あそぼう会とかに少し出られるようになるぐらいまで、赤ちゃんはしゃべれないので、会話する人が本当にいなくて、そんな感じでした。

#### ○ 笹岡秀太郎委員

それは大変でしたね。ご苦労さんでございます。私が言うのも変な話ですけども。それぞれでいろんな困り事や悩み事があるんだなという思いがしました。

例えば、子供が大きくなって幼稚園へ通いました、そして、その折に、例えば、地域の人たちの見守りとか、あるいはこんなことが助かったなとか、あるいはこういうことをやってくれたらもっとうれしかった、助かったなとか、そういうことってありますか。

#### ○ 森川 慎委員長

どうでしょう。

#### ○ \_\_\_\_参考人

私は一番上の子供が2年前に幼稚園を卒園して、小学校に入学したんですけど、PTAなりいろいろ仕事が増えてくると思うんですけど、どのような形で準備していったらいいのか、小学校の行事はどういうふうに行ったらいいのか、そういうことへの不安を解消する

ために、幼稚園に預けているお母さんは一番上の子ばかり預けているのではなくて、2番目、3番目の子も預けていて、先輩というか、お母さんに不安を話して、いや、大丈夫だよとか、ここはこういうふうにしたらいいよという形で相談に乗ったりしてもらっていたのと、地域の方に登校、下校を見守ってもらうということで、地域の方とつながっていると、自分の子供が帰りにこけたときとかに手当てしていただいたり、1年生のときに途中でしんどくなって、ちょっと軽く熱中症とかになったときに声をかけていただいてお茶を頂いたり、そういう形で地域の方と連携して助けていただいていたので、そういう形でお世話になったりしていました。

### ○ 笹岡秀太郎委員

そうすると、やはり地域の皆さんとの関わりとか、あるいは子供たちのお母さんとか——ママ友というんですか——そういうつながりもやはり大事なんだという感覚で受け取りましたし、やっぱり四日市市がもう少しその辺りをどうサポートできるのか、ちょっと私はよう分からんですけれども、やっぱり子育てするならそういうポイントも大事なんだなということを思いましたので、今後の議論の参考にさせていただきたいと思います。

今日はお忙しい中ありがとうございました。

### ○ \_\_\_\_\_参考人

地域の方々との関わりなんですけど、これ、他園の公立幼稚園に通っているお友達のお母さんが、うちの園は焼き芋を地域の方が準備してくださって、朝から葉っぱを集めてくださって、子供たちと一緒にやってもらえるんですとあって、子供たちも地域の人たちに感謝しているし、その地域の人たちもそれを生きがいにしてくれているので、すごくつながりがあったってうれしいと言っていて、お互いウィン・ウインの関係にあるんだなって。公立幼稚園がなくなっちゃうと、そういう地域のつながりも切れてしまうのはすごく悲しいことなんだなとちょっと思いました。

### ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

他にご質疑どうでしょうか。

## ○ 小川政人委員

ちょっと今の話なんですけど、孫が7人おりまして、富洲原と富田にお世話になってます。富田の孫は今もう中学3年で、幼稚園のときから落ちかかったぐらいの問題児だったんですけど、その中で考えるのは、富田幼稚園が富洲原幼稚園より先になくなるのかなというのを前回の委員会で見せてもらってびっくりしたのと、それから、物理的に富田の保育園と幼稚園との距離はかなり離れていますよね。あれがどうやって統合できるのかなというのも何か疑問に思っているところです。

それと、富洲原には児童館があるもので、私は児童館を全中学校区につくってほしいなという意見を持っておるんですけど、いつもはねつけられていますけれども、そういう考えをずっと持ちながら、公私とかそういうのは別段関係なしにして、できたら地域的に幼児教育の機関があったほうがバスで通うよりもいいんじゃないかなとは思っていますけれども、これ、いつも思うんですけど、先生方にももっと努力をしてほしいなと思う。子供たちを入れるという、勧誘するという事は、先生方の大事な仕事のうちの一つかなと思うんですけど、それに対する不満というのは毎年感じています。市議会議員になってから幼稚園の卒園式に出させてもらうんですけども、もう減る一方です。だんだん減っていきますから、その辺でどうしても先生方にも幼稚園児の勧誘というのはきちっとしてほしいなという不満が少しあります。

その辺は皆さんの意見とは違うかも分らんけど、その部分において、もっと全員が努力しやなあかなとも思っています。我々の努力が足りないところもあるし、それから先生方、それから保護者の皆さんにも努力をしなくてはならないところがある。

ただ、考え方としては、できたら四日市の各地区に均等に教育機関があってほしいなという思いはずっと持ち続けております。答えにはならないと思いますが、そういう考え方です。

## ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

ちょっと今のご質問で、現場の先生方、もっと勧誘とか子供たちを増やすためにというふうなお話で、小川委員はちょっとその辺が足らんのじゃないかというような指摘ですけど、度々このお話はこの委員会でも出てくるんですけども、皆さんは具体的にその辺をどう感じられていますかね。何か思い当たるころがあれば。

○ \_\_\_\_参考人

私の息子の3番目の子が今1歳なんですけど、私立幼稚園から、今、プレに入ってくださいという案内が来ています。公立幼稚園は、3歳児になってやっとスタートラインが見えてくるのに、私立はもう1歳になったら案内が来るので、四日市市のゼロ歳、1歳、2歳とかの子供の人数が減っているかもしれないんですけど、きっと私立幼稚園に通う子供は減っていないと思います。どちらかというところ、公立幼稚園に行っている子がどんどん減るだけで、早くから私立に行っちゃうのでスタートラインがまず違うというか。なので、公立幼稚園はもう本当に行きたいと思っている方か、途中から引っ越しで来た方で、公立幼稚園は空きがいっぱいあるので入りやすいから入りましたとか、家の近くに公立幼稚園があったので入りましたという方が結構多くて、なので、スタートラインが違うので、そもそもの人数が変わってしまうのかなというのは感じています。

保護者の私たちももっと公立幼稚園のいいところをいろんな方にアピールしていけば増えると思うので、その辺で力を出させていただけたいとは思っております。

○ \_\_\_\_参考人

\_\_\_\_さんとほぼ同意見なんですけど、先生方に対してというよりも、やはり3歳児保育がない時点でスタートラインが違うので、その分、園児を集めるのは難しい。少子化も進んでいる中、時代は変わっているので、難しいと思うし、私立のように子供を持っている人たちに宣伝——例えば情報誌とかに載せたりとか——は公立では難しいんじゃないかなとも思いますし、先生方というよりは、やっぱりスタートラインが違うということをごく強く思います。

以上です。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

具体的にいろいろ実態を教えてくださいました。

○ 村山繁生委員

どうも今日はお疲れさまです。

今日の皆さんのお気持ちというか、ご意見を大きく分けると、まずは3歳児保育が一つ。それと、一体どんな認定こども園になるのか、幼稚園型なのか、幼保連携型なのか、そういったその二つが大きな問題だなというふうに感じております。このことに関しては、せんだっての議会報告会でも同じような意見が出ました。

そこで、ちょっとお尋ねするんですけども、行政からの説明会の際に、ただもう人数が少なくなりますから休園になります、廃園になります、そして、こども園化します、もうそれだけで終わったのか、それとも、どういうこども園か、例えば1日のスケジュールだとか教育、保育のやり方だとか、そういったことの説明は一切なかったんですか。

○ \_\_\_\_\_参考人

時間に関する説明はありました。でも、どういうこども園かという内容はなかったです。

○ 森川 慎委員長

時間というのはスケジュールなのかな。

○ \_\_\_\_\_参考人

登園時間、スケジュールのことですね。

○ 森川 慎委員長

一日の。

○ 村山繁生委員

私も常々、こども園にされてしまうと捉えるんじゃなくて、こども園をもっとポジティブに捉えて、行政自体ももっとしっかりと説明をしろというふうについておるんですけども、なかなか足りないところは本当に申し訳なく思っております。

ちなみに、私は橋北地区なんですけれども、橋北こども園の取材というと大げさですけども、ちょっと行ってきたんですけど、午後2時半までは幼保で同じことをやるんですけども、保育園児から見ると、英語を教えてもらえるんやとって喜んでいたり、また、幼稚園側から見ると、子供たちが自分たちで遊び方のルールを決めて、ルールを考えて、うまく遊んでいると、それでまた全部給食やからそれも喜んでいて、それもありません。

し、先生同士の交流というか、保育士さんと幼稚園の先生の、ええところを、ああいうふうにするとええんやなとか、非常になかなかうまくいいところ取りをして、うまくやっているというふうに私は印象を受けてきたんです。二、三の保護者の方に聞いたら、非常に喜んでみえました。

皆さん方、お忙しいのであれなんですけれども、四日市市には五つこども園があるんですけれども、どこか見学というか行かれたことはありますか。

#### ○ \_\_\_\_参考人

私も橋北のこども園の子育て支援のところに何度か行かせてもらったんですけど、園庭での園児の活動しか分からないので、詳しいことは分からないんですけど、1歳から5歳児が同じ園庭で遊ぶんですけど、やはり体格差があるように見えて、私の子供はそのとき2歳だったんですけども、ちょっと大きい子と遊ぶときは危ないなというのを感じてしまいました。

#### ○ \_\_\_\_\_参考人

私も橋北と、あと塩浜のほうの子育て支援センターに何度か遊びに行かせてもらったんですけど、本当に園庭とかをのぞく程度なので、生活の流れや遊びの内容まではちょっと見られませんでした。

#### ○ 村山繁生委員

ありがとうございます。

とにかくこども園の説明はもう引き続きしっかり周知するように、また改めて行政のほうにも伝えますし、それから、3歳児保育も、総合計画では3歳児保育をこども園で担保するというようなことを書いておきながら、いまだにいつからだとはっきり言わないんですね。その点もきちっともっと強く訴えて、議会としてもやっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○ 森川 慎委員長

以上ですかね。



## ○ 土井数馬委員

今日も皆さんもそうですし、私たちもそうですけれども、みんなマスクしておるんですけれども、やっぱりコロナなんですよね。今ニュースをつけても、イギリスのほうでCOP26をやっていますけれども、だから、世の中がコロナとか温暖化ですごく変わる時期に来ているんじゃないかと思っています。

子供が減っていつている、人口が減っていつているんじゃないかと、これはもう皆さん周知の事実のようなんですけれども、今世界は78億7000万人ぐらいおるんですけど、2030年には100億人になるだろうと言われておるんです。でも、日本は減っていきます。

これはやっぱりコロナとか温暖化でこれから働き方とか社会が変わっていくと思うんですよ。そうすると、市が言うのには、人口、子供は減っていくけれども、保育の需要は増えていくと、こういう説明がこの間あったんですけども、そうすると、保育園をまた新しくつくるというんですよ、私立の。要らんやないかと、子供は減っていくのという議論は出てくるわけなんですけれども、いや、子供は減るけれども、需要は増えるから、保育園が必要なんだと。でも、実際ずっとしていけば減っていくじゃないかと、こういう今議論を私どもはしているわけなんですけど、その中でも、先ほど出ていましたけど、3歳児保育や預かり保育も実はこの委員会で要望しています。実際要望しているんです。なかなか折り合いがつかずに進まないですけど、ちゃんと要望しているんですけどね。

あと、フルタイムで働く女性の方がずっと増えてきておって、また、仕事のタイプが変わってきましたので、今リモートワークとかで働き方がいろいろ変わってくると、また全然違うような保育園や幼稚園の体系が出てくるんじゃないかというふうに私は思っています。

今、こども園の話が出ていますけれども、まだ始めたばかりです。実際皆さんもさっきも見に行ったと言われましても、まだやって数年ぐらいのところ、四日市市もやり始めて本当はどうなんやというのを僕はまだつかんでいないと思うんですよ、私たちもそうですけど。ですから、これからも変わっていくだろうなという時期じゃないかなというふうに思っています。

あと、また、どんどん仕事も変わってくるだろうし、女性がフルタイムで働くところが増えて、需要が増えると言いますが、そうすると結婚が遅くなっていくんですよね。そうすると、やっぱり子供が減っていくわけで、なんか矛盾した話をいっぱい出してくるんですけども、行政のほうは、僕らも何や知らんけどそれに合わせているようなところが

あるので、もう少し整理をしながら私たちも意見を言って、皆さんからの意見も聞いて、実際は四日市だけじゃなしに全部がそうだと思うんですよ、同じように進んでいますので。本当の答えはどこにあるんだろうって、すぐ先のことばかり議論しておるもので、ようけお金が要るとか要らないとか、子供は減るけど保育の需要は増えるとか、何か行ったり来たりしておって、本当の答えが誰も見えていないんじゃないかと思いますので、もう少ししっかり私たちも深く議論したいなと思いますし、今日の皆さんの意見も聞かせていただいて、僕は公立の幼稚園とか保育園、何かイメージは泥まみれのようなところで、そういうので、昔ですと、私の幼稚園というのはばりっとした制服を着てバスで通っておったというイメージしか僕はないもので、だから、そういうのもまた変わっていくんだろうなと思って、少し様子を見ながら、また、皆さんにいろんな意見も聞きたいし、ただ、そんなことを言うてられませんもんね、もう幼稚園がなくなると言っていますので。その辺、もう少しまた行政のほうとも議論して、またいいお話ができたらなと思いますので、よろしく願いいたします。今日はありがとうございます。

#### ○ 森川 慎委員長

ご意見、ご感想をいただきました。

#### ○ \_\_\_\_\_参考人

全国的に見たら少子化は進んでいると思うんですけど、本当に公立幼稚園の人数が少なくなっているのは絶対少子化じゃないんです。

\_\_\_\_\_小学校の1年生は今120人いるんです。なのに、\_\_\_\_\_幼稚園に入る子は10人いるかないかぐらいなんです。今はそれだけ公立幼稚園が選ばれない状況になっているということはどうしてもご理解いただきたいです。

今、無償化無償化というんですけど、無償化になっても私立のほうが大分実質かかっているお金って高いんです、月々にしても。もう入園から入園金とかが私立は要りますし、もちろん公立はそんなのはないですし、入園準備だけで私立やと10万円弱ぐらい今でもかかっている——公立は1万円ぐらいで済むんですけど——それだけ入園するのにも金額の差はあります。入園してからも、年間にすると、私立さんやと本当に10万円ぐらい今でもかかって、公立は2万円ぐらいの出費です。

それだけ出費の差があっても、それでも私立に入れなきゃいけない——ほぼ3歳児保育

がないからなんですけど——現状だということはどうしてもお伝えしたいし、もうそこを認めてほしいと私は強く思うし、今、保育、教育が変わるときだからこそ、今まで培ってきた幼稚園の、四日市市の公立の幼児教育、本当に素晴らしい教育を今しているのを、これをどうしても残してもらいたいです、どういう形に変わっても。今の形で残してほしいと言っているんじゃないで、新しい形に変わっていくときに、今の大事なことを残していただきたいです。よろしくお願いします。

#### ○ 森川 慎委員長

ありがとうございました。切実なご意見だと思いました。

お約束の大体時間になってまいりましたけれども、委員のほうから何か最後聞いておきたいとか、よろしいですか。

#### ○ 小川政人委員

孫の話はしたんですけれども、子供が私、4人おりまして、富洲原なんです。初めは保育園に入れてもらって、それから、皆途中、幼稚園に入る年齢になったら幼稚園に替わったと。

ですから、保育園から幼稚園に替わるということは別段そんなに難しいことでもないし、自由に替わるはずですから、その辺はきちっと思考回路の中に入れておいてもらったら、替わるということだけは記憶しておいてほしいなと思いますし、それから、やはり幼稚園経営の中で、私立幼稚園はやはり経営が一番大事ですから、公立幼稚園も同じように経営できるような努力をしないではいけないなというのは、私はずっと思っていますから、それは、公立としてできる範囲が決まっていると言われたんですけれども、それは取っ払えばいいことであって、やはり公立を残していくためにはきちっとやっていかなあかなというふうに思っています。

以上です。

#### ○ 森川 慎委員長

ご意見をいただきました。

他の委員の皆さん、よろしいですか。よろしいですかね。

(なし)

○ 森川 慎委員長

それでは、最後、保護者の方で、皆さんで何かこれだけはちょっと言い残したとか、最後言っておきたいというようなことがあったら、お受けして終わりにしたいと思いますが、いかがですか。なかったらなかったで結構ですけれども。

○ \_\_\_\_参考人

今回、令和4年度の入園児募集の裏側に第2次適正化計画というのが載って、広報紙で回ってきました。4園が廃園に向かっていくことを今回のことでより多くの保護者が知るようになったと思います。

なので、保護者の声は大きくなると思っておいてほしいと思います。なので、ぜひもっと前に進めてほしいと強く思いますので、よろしくお願いします。

○ 森川 慎委員長

承りました。

他によろしいですか。どうですか、言い残したことはないですかね。大丈夫ですか。

○ \_\_\_\_参考人

今でもすごく魅力のある公立幼稚園なんですけど、もっともっと多くの方に来ていただけるように、もっと3歳児保育や早朝預かり、延長保育、その他のいろいろ、地域と連携してスポーツ教室等を開いていただいたら、親の興味もすごくそちらのほうにも向くと思いますので、そのような工夫、魅力をもっとアップさせるようなことをしていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

他によろしかったでしょうか。

○ 日置記平委員

現状、分かりました。公立と私立の費用の問題、私立はあまり経験がなかったので、随分昔のことなので、今ちょっと報告いただいて、ああ、そんなに格差があるのやと知りました。何でということ、今度は原因分析をしなければいけません。なぜ公立が少ないのか、魅力を皆さん感じてみえるのに。魅力はある、でも、そこへ求められない原因分析をしないと、皆さんの要望に応えられない。

そこで、子育てするなら四日市と言ったお兄さんに答えを出してもらわないいけませんね。しかと答えを出してもらいます。

### ○ 森川 慎委員長

感想もいただきましたので、それでは、お時間をちょっと超えてしまいましたけれども、本日の参考人の皆さんとの意見交換、ご質疑はこの程度とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、ご退席いただくんですけれども、一回ここで休憩をさせていただきたいと思います。午後3時20分に再開させていただいて、これを受けて皆さんでちょっと意見交換をして、あと、今後どう進めていこうかというような相談をさせていただきたいと思いますので、委員の皆さんはもう少し残っていただいて、休憩後にお戻りください。

それでは、皆さんありがとうございました。お世話になりました。気をつけてお帰りください。

15 : 06 休憩

---

15 : 15 再開

### ○ 森川 慎委員長

それでは、再開をさせていただきます。

まず、今の、先ほどの参考人の皆さんとの質疑、意見交換を通じて感想とか今後につながるようなことがありましたら、委員間でご意見出し合って、感想でも結構ですので、お伺いさせていただきたいなと思いますが、いかがでしょう。

### ○ 中川雅晶委員

一つは、やっぱり認定こども園化するときに、できれば3歳児保育の受入れの基準であったりとかをセットにする必要があるのかなと思います。既存の認定こども園をどうするかというのがありますが、その辺をやっぱり明確にしていかなければ、基準に合わせてやりますよと総合計画に書いておきながら、薄めた形で書いてあるので、どこからとかどの基準でとか、不明確な部分を今回の調査報告の中に、それをしっかりとやっぱり明確にすべきだということはおさえておかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思います。

○ 森川 慎委員長

もういついつからやると、どこまでやるかを。

○ 中川雅晶委員

どの基準でやるのかとか。

○ 森川 慎委員長

そういうところまで具体的に。

○ 中川雅晶委員

できないのやったら、できない基準とかを明確にする、どこからやっていくのかとかということをやっぱり明確にしていかなきゃいけないかなというふうに思います。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

他にどうでしょう。

○ 笹岡秀太郎委員

あそび会——見学会というのかな——に参加しても、どうも中身というか本質のところが見られないような仕組みになっていないかなと。工夫していないと言ったほうがいいのかな。何か園庭の隅のほうで遊ばされておるだけだとか、そうして見ると、もう少しあそび会の工夫というのが、理解してもらえるような何か方法が必要なんじゃないかなというようなことを感じました。

○ 森川 慎委員長

先ほど言ってもらっておったのは、多分こども園と保育園でのあそぼう会ですね。今、あそび会というのとあそぼう会というのがあって、幼稚園はあそび会があって、多分おっしゃっていただいていたのは、あそぼう会とかこども園で行われている付随するようなことで、ゼロから5歳の子たちが一緒に園庭でということで、端のほうでちょっと危ないなといってやっているというようなご意見だと。全般でその辺の確認なり調査というのが必要だというようなご意見だと思います。ありがとうございます。

他にいかがでしょう。感想等でも結構です。

○ 小田あけみ副委員長

やっぱり一番不安に思っているのは、どうなっていくかが分からないということだと私は感じましたので、こども園というのがどんなもので、こども園像というのが父兄に伝わるような、そういう努力をしていってほしいし、こども園がどれだけいいよいいよと言っても、形がどんなものになるか分からないのが一番の不安なので、いついつまでにどの地区にはこんなこども園ができますというのをはっきりさせてほしいなと思いました。

以上です。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

こども園をどうやって知っていこうかというところが分からないから不安を感じる、再三出ているようなご意見かと思います。

他にどうでしょう。

○ 土井数馬委員

この間の野球の話じゃないですけど、実力のパ・リーグってよく言うたでしょう。あれと一緒に、昔はやっぱり人気のセ・リーグで、実力のパ・リーグやったんですよ。今は人気ももうパ・リーグになってきておるんですよ。昔は電鉄会社とかの本社の金で経営をしておったんですけど、今は違いますよ。サッカーのJリーグと同じように独自でやっているんですよ。

だから、公立幼稚園というか、さっきも出ていましたけど、私立幼稚園はもう早くから案内が来ると言っておりましたやないか。まだ子供が1歳なのにもう来るんやと。でも、公立幼稚園は何もせえへん。本当ぎりぎりになって募集をかけてきても、ここは何人になつたらなくなりますって、そんな案内をもろうてもうれしくも何ともないわけで、だから、あそび会とか、いっぱいいいことをしてもらっているって言ってもらっていたやないですか。あれ、やっぱり個々の先生たちでもPRできるような、そういうのをしないと、やっぱりこども未来課しかもうPRもしたらあかんのやと、決まったものしか出さんのやで、これではあかんって、やっぱり。

地区で、日置委員の内部地区と僕の日永地区ではやっぱり場所も違うし、景色も違うんですよ。そうすると、その辺も、いや、うちはこのところがありますよとか、そういうPRを公立でも出してもいいんやないかと思うもんで、そういう予算もつけたっていいんやないかなと思う。手作りのもので、子供を散歩に連れながらみんなに配るとか、そういうふうなこともしていけばもっとよくなるんじゃないかと思っておりますので、パ・リーグを目指したいなというふうに思っています。

以上です。

#### ○ 森川 慎委員長

パ・リーグは保育園ということですね。

他にどうでしょうか。

#### ○ 日置記平委員

パ・リーグ戦略が出たところで、その戦略の一つで、一つの募集をかけたなら20人を下回ったから、そこをもうゼロにするというのはやめましょう。これはやめないかん、やめてくれと言っておるんやもん。だから、これは一つの基準を、そんなものを早くから設けやんと、しっかりとアットホームなアピールをしてほしい。定数については、もうそれは垣根を取っ払うということをしつかりと求めないかんと思えます。

#### ○ 森川 慎委員長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。よろしいですか。



他によろしいですか。

#### ○ 中川雅晶委員

僕は、今日のお母さん方も認定こども園化はある程度ご理解されているのかなというふうには受け取りました。ただ、どういうふうなものかをちゃんと指し示してほしいというところが不安の一番の原因かなと思います。

公立の幼稚園、保育園、認定こども園含めて、公立の最もやっていかなきゃいけないところは、やっぱり社会的な養育や支援が必要な子供であったりとか、発達支援の必要な子供を受け入れて、どう質を上げていくかということがやっぱり求められているのかなと思います。

私たちも現場でいろいろお話を伺うと、やっぱりなかなか小規模保育園とか幼稚園とかに入っても、適切な質の高い専門的な支援はなかなか受け切れていないというのは大きな課題として感じていますので、あわせて、こういうところの質をいかに上げていくかというのも、認定こども園化すると同時、ないしはその前にも公立の役割というのを——役割としては明記をしているんですが——どのように担保していくかということもやっぱりやっていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに意見として言わせていただきます。

#### ○ 森川 慎委員長

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(なし)

#### ○ 森川 慎委員長

では、この程度にさせていただきます。皆さんご意見いただきましてありがとうございました。

次は、今後の進め方のご相談をさせていただきたいと思います。

次の日程は、11月15日月曜日、午後1時30分、これは皆さんに確認されていることとは思いますが、この後どうしていこうかというお話なんですけど、我々としては、もうこの辺で一回、視察へ行こうかとか、これまでいろんな皆さんから意見をいただいて、我々も考えてはいたんですけども、また11月定例月議会が始まってくるとなってくると、もう

年をまたいでしまうようなことになるのかなということがありまして、今日の保護者さんとの意見交換というところで一旦区切らせていただいて、皆さんから先ほども意見がありましたけれども、こういった意見をまとめの形でつくっていききたいなというふうに正副としては考えているんですけども、それはどうでしょうか。皆さんのご意見を賜りたいと思うんですが。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

異議なしでいいですかね。

○ 日置記平委員

答えをもらわなあかん。行きっ放しでは何にもならない。

○ 森川 慎委員長

じゃ、もうそういう形で、調査というような部分は一旦ここで区切らせていただいて、今後この委員会としてのまとめをつくっていききたいというふうに考えます。

今回は、これまでの、今日のも含めて、それぞれ皆さんご議論なり調査をいただいた中で、どういう意見なり、どういう提言を行政にしていこうかというようなことで、また意見を集約させていただいて、それをしっかり形にして、もう一回ぐらいちょっと皆さんに最終確認だけさせていただいて、それで終わりにしようかなという、こんなスケジュールで思っているんですが、よろしいですか。いいですかね。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

そうしたら……。

○ 小川政人委員

一つだけ。一遍、コロナもそろそろ収束しつつあるで、別の件やけど、秘密会みたいな

ものを開いて、やっぱりきちっと情報公開を市民にもせなあかんで、これは大事なことやと思うので、秘密会を開く用意も一遍ぐらいしてもらいたいなと思って。

○ 森川 慎委員長

それはコロナの関係の話ですね。分かりました。まず、それは承ります、また相談させていただきます。

○ 小川政人委員

今まで言えやん言えやんという答えばかりやで。

○ 森川 慎委員長

分かりました。一回、理事者と相談させていただきます。

所管事務調査に関しては、そういう取りまとめでよろしいですか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

そうしたら、次回に向けて何かたたき台みたいなものはやっぱりあったほうがいいかなとは思っているのですが、私、ちょっとこれまでの議論とかを踏まえて、皆さんから出された意見とか、当然保護者の方や園長先生とか、こういったところからも意見が出ていたと思うので、その辺をまとめさせていただいて、これまでも議事をいろいろまとめさせていただいているのも、この辺も改めて添付させていただいて、皆さんにたたき台として提示をさせていただいて、成案をどうやってつくっていくかというご議論を皆さんにいただくというような形でしたいと思いますが、よろしいですかね、そういう形で。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

では、そういうふうに進めてまいりますので、では、次回11月15日、午後1時30分、これは準備だけしておいていただきたいと思います。

その際に、11月15日、次回なんですけれども、議会改革検討会座長、樋口龍馬副議長のほうから委員会をオンラインで開催していただけないかということが、委員会に下りてきています。

委員のお一人のどなたかを、ちょっと委員会室ではない別室からオンラインで参加いただくというような形を取ってくれないかというような要請が来ておりますので、する、しないを決めればいいですか。しないというのもありなんですか。

事務局、ちょっと詳しく説明してください。

#### ○ 渡邊議会事務局主事

事務局の渡邊です。

オンライン開催については、先ほども委員長が言われましたように、議会運営委員会のほうで、樋口龍馬副議長のほうから、休会中の所管事務調査の場で、試行的にまずはやっていただいて、要は、オンラインの操作というのに慣れていただきたいというふうな、そういう意味合いもあって、教育民生常任委員会だけでなく、ほかの常任委員会も含めて、一度、休会中のどこかでやらしてもらえないでしょうか、については、操作方法の習熟のためということですので、こちらでもぜひそういうのを一回やっていただいて、実際にオンライン会議をやることについて慣れていただくというような、そういう意味合いもありますので、具体的に申し上げますと、委員の中の1名の方が例えば会派控室においていただいて、その方が会派控室からリモートで例えば第2委員会室におけるほかの皆さんと一緒に会議を進めていくというような、そういう形態をぜひ次回にさせていただいたらどうかというような、そういう趣旨でございます。

#### ○ 森川 慎委員長

ということで、オンラインを使用してほしいということなんです、マストではないんですよね。必ずするべきなんですか。

#### ○ 渡邊議会事務局主事

基本はやっていただければなということですね。

#### ○ 森川 慎委員長

ということで、議会運営委員会の正副委員長も見えますので、なるべく教育民生常任委員会としては協力をしていきたいという意味は、正副委員長としては持っているんですけども、いいですかね。

誰がオンラインかという話で、最初私になろうかと言ったけど、委員長は駄目だという話だったので……。

○ 日置記平委員

何で委員長は駄目なの。

○ 森川 慎委員長

何かやっぱり差配しやなあかんもんで。どうですか、どなたか希望を、私はオンラインでいいよという、次はもう基本的に議員間の討議なので、そんなに。

○ 日置記平委員

豊田委員。

○ 村山繁生委員

1人だけ。

○ 森川 慎委員長

全員がオンラインというのもありますか。

○ 渡邊議会事務局主事

基本、機器の設定とかもありますので、まずはお一人で考えていただければなど。

○ 森川 慎委員長

誰か一人でという話ですけど、豊田委員やともう来やん可能性もある。

○ 土井数馬委員

中川委員、責任取ってもらわんと。

○ 中川雅晶委員

僕は全然問題ないです。

○ 森川 慎委員長

じゃ、そうしましょう。

○ 中川雅晶委員

小川委員も、でも、あれでしょう、会派控室に。

○ 小川政人委員

俺が映ったら、映りが悪いやんか。

○ 中川雅晶委員

ここまで来んでもいいからいいかなと思って。

○ 森川 慎委員長

そうしたら、議会運営委員会の委員長に率先して一回やっていただきましょうか。いいですかね。

○ 中川雅晶委員

僕やります。

○ 森川 慎委員長

そうしたら、中川委員には、来てもらうのは来てもらうんですかね、市役所まで。会派控室でももらう、基本。

○ 渡邊議会事務局主事

例えば会派控室にお越しただいて。

○ 森川 慎委員長

でも、ご自宅でもええような気がしますけど、それはあかんの。

○ 渡邊議会事務局主事

一応事務局もフォローをさせていただく予定やもんで、それであれば会派控室というような意味合いです。

○ 森川 慎委員長

分かりました。

そうしたら、中川委員に別室——会派控室になるかというような想定ですけれども——そちらには来ていただいて、オンラインで会議に参加していただいて、11月15日の所管事務調査をしていくということで予定をさせていただきますので、よろしいですかね。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

では、そのように進めさせていただきます。

本日決めるのは、以上ですね。

皆さん、これで本日全て終了しましたので、これで……。

○ 渡邊議会事務局主事

事務局からなんですけど、次回11月15日の場所なんですけれども、次回は教育民生常任委員会以外にもほかの常任委員会も開かれるということになっていますので、いつも全員協議会室でやっていただいていたけれども、11月15日については元の第2委員会室でやらせていただきますということだけご報告させていただきます。

以上です。

○ 森川 慎委員長

次は第2委員会室で、11月15日月曜日、午後1時30分から開始をさせていただきますので、お集まりいただきますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。終わります。

15 : 31 閉議